



天理市文化財だより Vol.33

特集1

なら歴史芸術文化村
考古遺物修復工房の

体験イベント

で、こんなことができます！

特集2

令和3年度発掘調査速報

ニ古墳出土鏡

2023.3 天理市教育委員会 文化財課

鏡造体験 ニ古墳出土鏡をつくろう！

なら歴史芸術文化村 考古遺物修復工房の体験イベント

で、
ごんなん、
できます！



奈良県の文化財（歴史文化資源）の保存と活用の拠点として、天理市^{そまのうち}
仙之内町に開村した「なら歴史芸術文化村」の文化財修復・展示棟では、「仏像等彫刻」「絵画・書跡等」「歴史的建造物」「考古遺物」の4つの分野の修復工房が公開されています。

天理市教育委員会文化財課は、考古遺物修復工房で、古墳文化に親しむことができる体験イベントを開催しています。

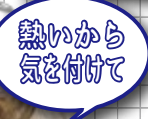
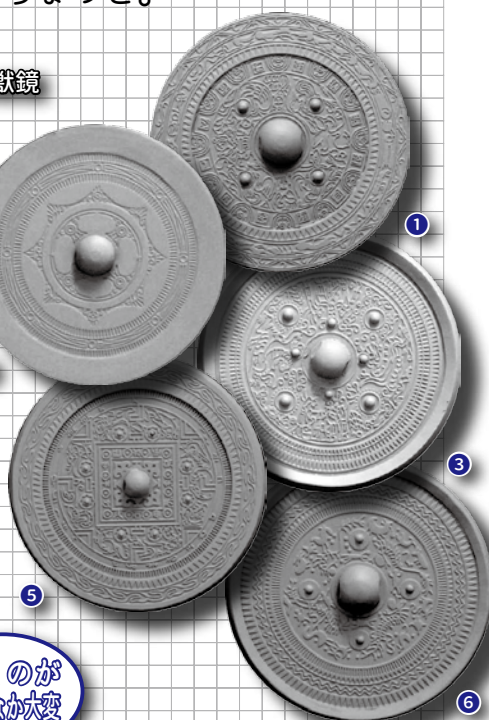
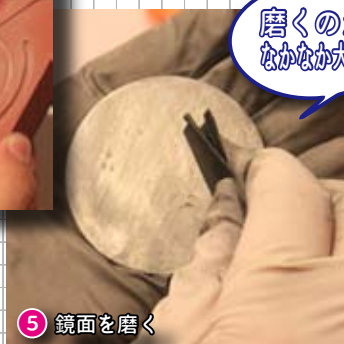
铸造体験 ミニ古墳出土鏡をつくろう！



低い温度で溶ける低融点合金^{ていゆうてんごうきん}を使って、古墳時代の鏡のミニチュア（直径約5cm）を铸造体験します。铸型の種類は全部で6種類。黒塚古墳^{くろづかこふん}など市内の古墳から出土した青銅鏡^{せいどうきよう}をデフォルメしたもので、シリコン製の铸型に実際に金属を流し込んで作ります。鏡面を磨く作業がいちばん大変です。所要時間は1時間ちょっと。



- 1 画文帯神獸鏡
- 2 吾作徐州銘四神四獸鏡
- 3 神人龍虎画像鏡
- 4 内行花文鏡
- 5 方格規矩鏡
- 6 人物鳥獸文鏡



ろうせき まがたま 蠟石で勾玉をつくろう！

古墳時代のアクセサリーである勾玉は翡翠、
瑪瑙、水晶、滑石、琥珀、ガラスなど様々な素材
で作られていますが、このワークショップでは
「ろうせき」という白色の柔らかい石を使います。まず、
角ばった形の蠟石をヤスリで削りながら丸みをつけ
ていきます。形が整ったらペンなどを用いて好みの
色をつけると完成です。所要時間は1時間くらい。

- ① 最初はカクカク、、、
- ② 角をヤスリで削って
- ③ 内側もヤスリで削って
- ④ だんだん丸みをつけて
- ⑤ 断面も丸くなるように
- ⑥ 滑らかに仕上げます



石を削って
勾玉づくり



子どもが作った蠟石の勾玉

なんちゃって
勾玉です

色パターン
100通り以上

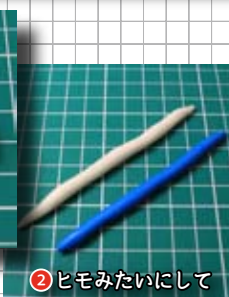


オープン粘土で勾玉をつくろう！

オープンで加熱すると硬くなる性質のある樹脂
粘土（オープン粘土）を使って勾玉づくりに挑戦
します。粘土をこねて柔らかくしてから、指で形
を整えていきます。2色の粘土をうまく混ぜると、
きれいなマール模様を作ることができます。い
ちばんお手軽な体験イベントです。所要時間は
30～40分くらい。



① 2色用意して



② ヒモみたいにしてお



③ より合わせて



④ まんまるにして



⑤ 勾玉の形にして



⑥ 孔をあけて焼いたら完成



九ノ坪・シマダ遺跡 子持勾玉・勾玉

まがたま
勾玉 弥生時代から古墳
時代を中心に長期間にわ
たって作られた装身具。
C字形やコの字形が特徴
です。石製やガラス製が
ほとんどですが、まれに
土製や青銅製も。

天理市文化財課主催

体験イベントに参加するには

天理市教育委員会文化財課が開催する体験イベントは、「なら歴史芸術文化村」のホームページで受付します。空席があれば当日でも参加可能。



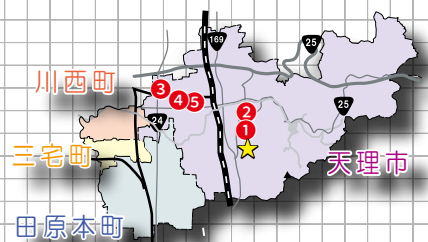
平日不定期開催 日時など詳しい情報は
文化村ホームページ（イベント）へ
参加無料（令和5年3月現在）

◆ 休日にも各種イベントが開催されています。
詳しくは文化村ホームページ（イベント）へ。

令和3年度発掘調査速報

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回は令和3（2021）年度におこなった4件の発掘調査と、天理大学との共同調査1件をご紹介します。

- ① 東乗鞍古墳第6次 ② 布留遺跡群第37次 ③ 中町遺跡第2次
④ 平等坊・岩室遺跡第38次 ⑤ 前栽遺跡第12次 ☆ マバカ古墳

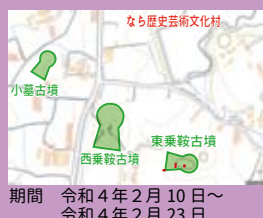


東乗鞍古墳 第6次

天理市教委・天理大学共同調査

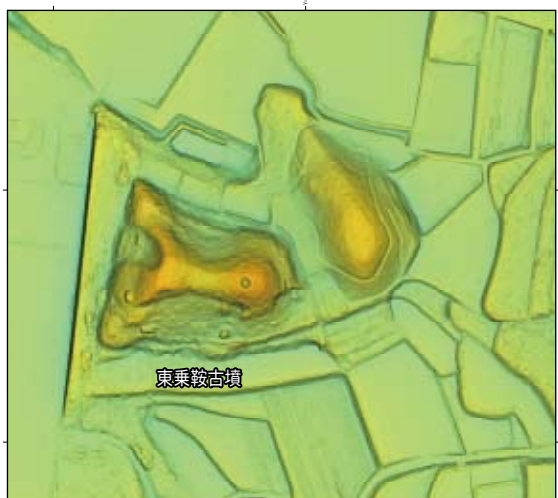
ひがしのりくらこふん

①



東乗鞍古墳は乙木町に所在する前方後円墳で、古墳時代後期に築造されたものと考えられています。平成29年度から天理市教育委員会・天理大学が共同で発掘調査に取り組んでいます。今回の第6次調査では、後円部と前方部の南側を調査しました。

今回の発掘調査により後円部や前方部東側の墳丘構造の手がかりが得られたほか、古墳の南側斜面が中世に大きく削り取られていたことも分かりました。



東乗鞍古墳地形起伏図

0 1:3,000 100m



前方部南西隅角付近の調査



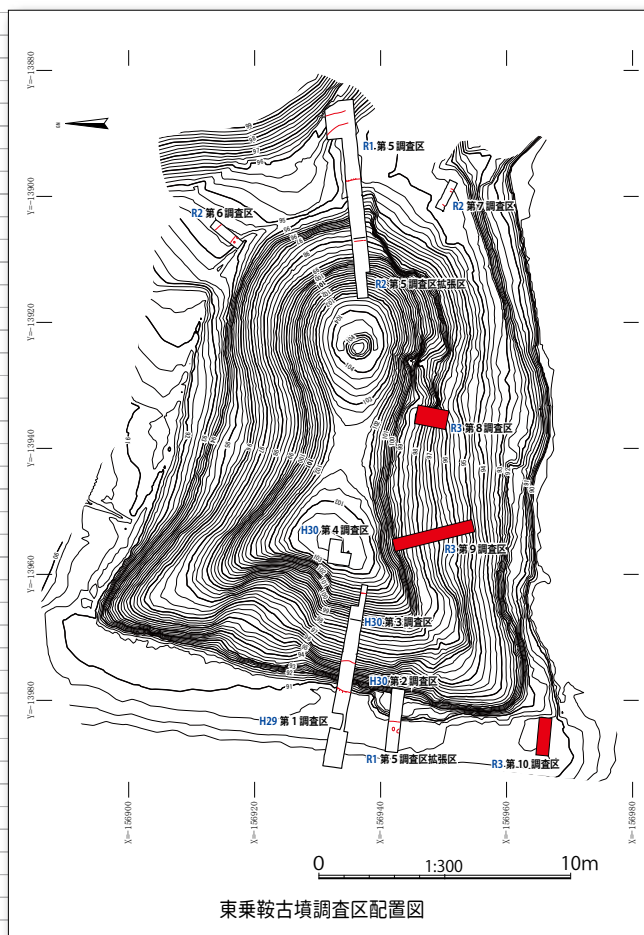
空から見た杣之内古墳群

これまでの調査でわかったこと

東乗鞍古墳は大正2（1913）年に後円部の横穴式石室の実測調査がおこなわれました。県内でも有数の大型横穴式石室が今も開口していることで知られています。

平成29（2017）年度からは天理市教育委員会・天理大学による共同調査をはじめました。古墳の保存に向けた基礎資料を蓄積するため、墳丘各所の発掘調査や測量調査を実施しています。

これまでの共同調査により、東乗鞍古墳が上下2段築成の前方後円墳であること、墳丘の下位は自然地形を利用し上位に盛土造成していること、古墳の全長が83m以上であること、前方部西側と後円部の周囲に周濠を持つことなどが確認されています。東乗鞍古墳は有力氏族の首長の墓にふさわしい規模と内容を有しています。



布留遺跡群 第37次

ふるいせきぐん

②



期間 令和3年12月1日～
令和3年12月8日

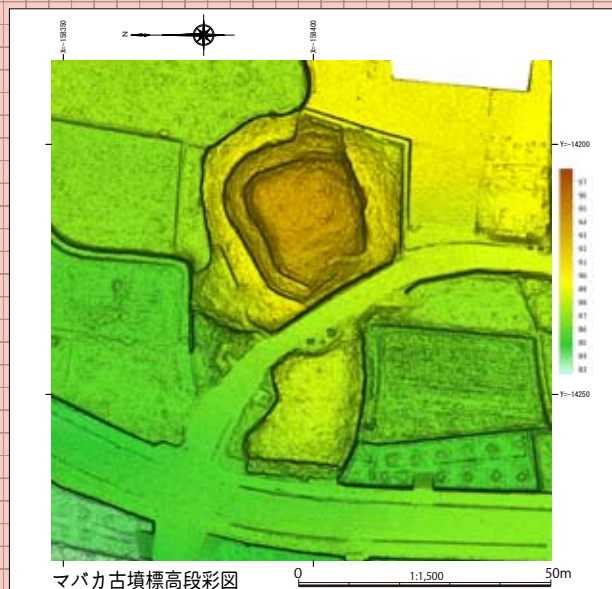
個人住宅の建築に伴い、布留遺跡群の東部、布留川が流れる山麓の北岸にあたる河岸段丘上で発掘調査をおこないました。このあたりは過去の発掘調査で弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡が見つかっています。水田により削平を受けていましたが、調査ではおびただしい河原石と水が流れた跡を検出、太古に流れていた布留川の跡と思われます。



調査区全景

大和古墳群マバカ古墳 航空レーザ測量を実施★

大和古墳群マバカ古墳では、古墳の地形を確認するための航空レーザ測量調査を実施しました。今後はマバカ古墳の保存に向けた基礎資料を得るための発掘調査を進めていく予定です。



中町遺跡 第2次

なかまちいせき

3



期間 令和3年10月11日～
令和3年10月29日

宅地造成に伴い、これまで中町遺跡の西側に隣接する別の遺跡(08C-0025 散布地)とされてきた地点で発掘調査をおこないました。調査では、古墳時代後期を主体とする井戸、柱穴、溝などが多数確認されました。遺構の分布は調査区北端付近に井戸群、中央付近に柱穴群、南半に溝群が集中する傾向が見られ、土地利用に一定の規則性がみられます。

遺構からは大量の須恵器や土師器のほかに「^{かんしきけい}韓式系土器」と呼ばれる朝鮮半島系^{とらいじん}の土器が一定量出土しており、遺跡と渡来人との関係がうかがえます。また、須恵器片の上に^{ぼし}乗せられた状態で馬歯^{すえき}が出土するなど、当時の儀式のようすを知る手がかりも得られました。



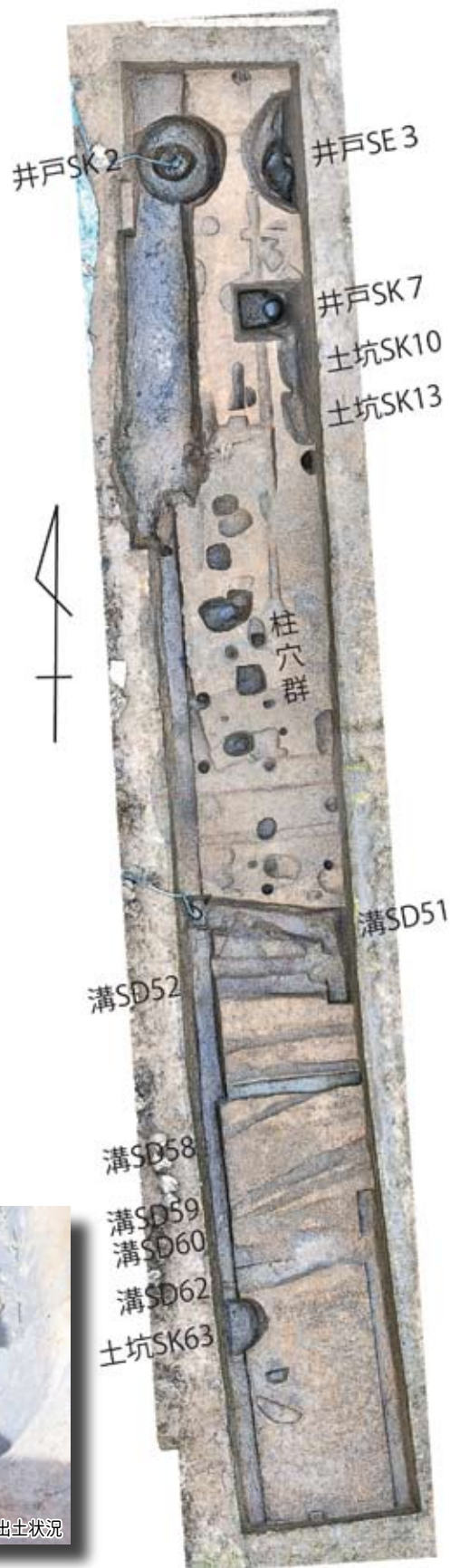
井戸 SK2 底付近の土器出土状況



井戸 SK7 底付近の土器出土状況



溝 SD51・52 の遺物出土状況



調査区オルソ画像 (1:150)

平等坊・岩室遺跡 第38次

びょうどうぼう・いわむろいせき

4



期間 令和3年4月5日～
令和3年4月28日

宅地造成に伴い、^{びょうどうぼう いわむろ}平等坊・岩室遺跡の北端付近で発掘調査をおこないました。調査では、奈良時代ごろを主体とする柱穴等が多数確認されたほか、瓦や墨書土器、土馬^{どば}などが出土しました。調査地の東側隣接地でおこなわれた第10次調査でも奈良時代ごろの柱穴等が多数確認されており、第10次調査地を含めた調査地周辺には奈良時代ごろの^{かんが}官衙ないし寺院が存在したものと考えられます。

一方、平等坊・岩室遺跡は弥生時代の拠点集落としてよく知られていますが、この調査地点では弥生時代の遺構や遺物^{きはく}は希薄で、当時の集落域からは外れるようです。



墨書土器の出土状況



土馬の出土状況



調査区全景（南から）

前栽遺跡 第12次

せんざいいせき

5



期間 令和3年7月20日～
令和3年7月30日

宅地造成に伴い、^{せんざい}前栽遺跡の東端付近で発掘調査をおこないました。調査では、東西に走る中世の堀状遺構が見つかりました。堀状遺構は上幅約4～5m、検出面からの深さ約1.2mで断面は逆台形を呈します。堀底からの湧水が激しいこと、埋土の下半は比較的均一な青灰色シルトとなることなどから、常時一定量の滞水がある水堀であった可能性が考えられます。

調査地の南西方で実施した第10次調査でも南北方向の堀状遺構が確認されていることから、調査地付近には中世の在地豪族^{じざむらい きょかん}（地侍）の居館が存在したと推定されます。



調査区全景（北から）



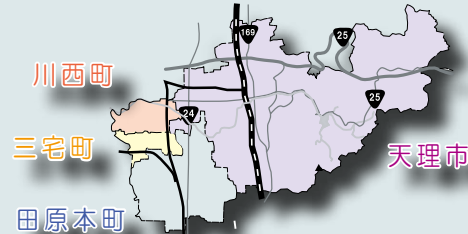
堀の掘削作業

堀の断面実測作業



大和まほろば 広域定住自立圏

天理市・川西町・三宅町・田原本町は文化財の保存と活用について広域連携による取り組みを推進しています。各市町の文化財の話題をお伝えします。



天理市

文化村でミニ展示やってます！

天理市文化財課は、天理市^{そまのうち}仙之内町に令和4（2022）年3月にオープンした「なら歴史芸術文化村」文化財修復・展示棟の考古遺物修復工房で、市内の遺跡から出土した遺物の整理作業を公開しています。

考古遺物修復工房のロビー側のスペースにはミニ展示コーナーを設けました。考古遺物修復工房での作業に用いる道具や、新たに復元が完了した様々な遺物など、定期的に展示替えしていく予定です。定住自立圏の文化財についても発信していきます。文化村にお越しの際は、考古遺物修復工房のミニ展示コーナーにも、ぜひご注目ください。



■天理市「なら歴史芸術文化村」のミニ展示コーナー

川西町

油掛地蔵

工業団地の北側にある大永三年（1523）造立、^{ふながたこうはい}舟形光背の高さ約1mの石造地蔵菩薩立像です。できものを治す為に願をかける際に油をかけることから油掛地蔵と名付けられました。古い文書には吐田が水害に遭うことを嘆いた聖徳太子が、この地蔵尊に油を掛ければ水害に遭わないと言ったという由来が残ります。背景には三宅町に名残のある^{たいしのみち}太子道（筋違道）を北へ伸ばすと油掛地蔵に当たるといふ事実があります。

これら民間信仰を知りえる遺構として有形民俗の町指定文化財に指定されています。



■川西町 油掛地蔵

三宅町

聖徳太子の足跡を辿る道～筋違道～

三宅町屏風・伴堂を通り、田原本町保津方面へ向かって南南東に延びる1本の道があります。この道は古代官道のひとつで飛鳥時代に成立します。条里制の地割りに斜交する様子が、壁などの建築物の補強部材である筋違に似ていることから「筋違道」と呼ばれます。本来は斑鳩から飛鳥までを結んでおり、聖徳太子が舍人である調子鷹を従えて、愛馬黒駒に乗って往来したという伝承から「太子道」とも呼ばれています。町内の道沿いには聖徳太子にまつわる伝承スポットが多くあり、今でも太子の足跡を辿ることができます。



■三宅町 筋違道（伴堂地内）

田原本町

『木造十一面観音立像』を町の有形文化財に指定

田原本町南西部の矢部に所在する矢部観音堂に伝わる^{じゅういちめんくわんおんたつざう}十一面観音立像が、令和4年11月15日に田原本町指定有形文化財に指定されました。

この像は左手に水瓶、右手に錫杖を持つ長谷寺式十一面観音と呼ばれる姿をしています。大きさや作風などから平安時代後期（11世紀末から12世紀前半）に造られたと考えられています。また、隣接する小堂に江戸時代に造られた毘沙門天立像が祀られており、観音と毘沙門天を一セットとして祀る信仰が形として残っているのは珍しく重要であるため、毘沙門天立像も併せて指定されました。



■田原本町 十一面観音立像と毘沙門天立像

『大和神社ちゃんちゃん祭り調査報告書』販売中！

奈良県指定無形民俗文化財『大和神社ちゃんちゃん祭り』の調査報告書を販売しています。天理市埋蔵文化財センター・天理市立黒塚古墳展示館でお買い求めいただけるほか、通信販売もご利用いただけます。1冊 1,500円 残部僅少です。詳しくは天理市教育委員会文化財課 Tel：0743-65-5720 まで。



Vol.31 まで発行した『天理市埋蔵文化財センターだより』は、Vol.32 から『天理市文化財だより』に変わりました。これからも埋蔵文化財のみならず、幅広い文化財の魅力を発信していきます。

発行◆天理市教育委員会文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017 奈良県天理市田部町 441-2
Tel・Fax 0743-65-5720
印刷◆